

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 13年5月

～市場予想を上回る高い伸びも、生産計画はやや慎重

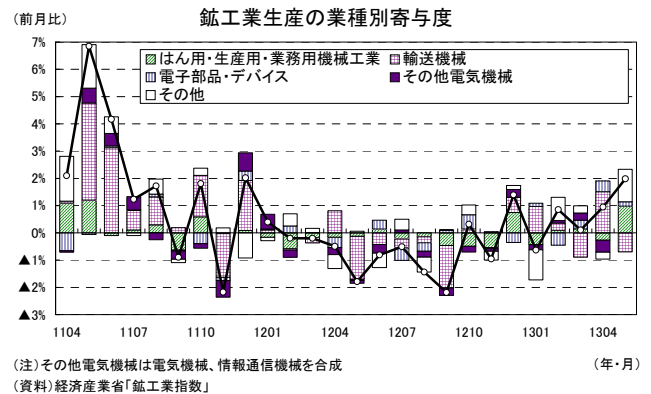
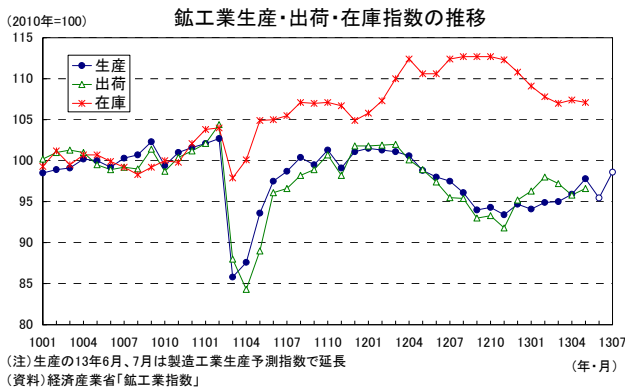
経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

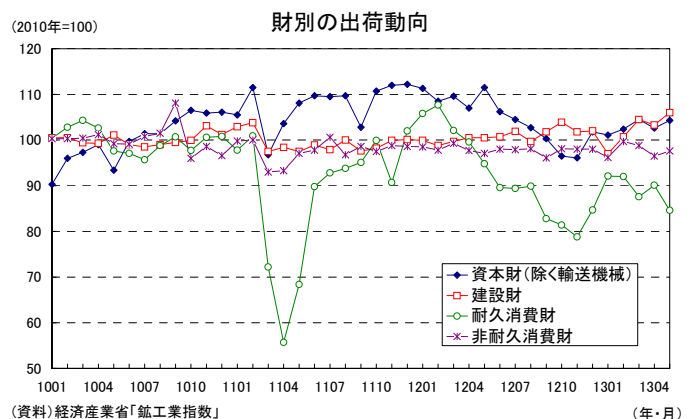
1. 生産の伸びは市場予想を大きく上回る

経済産業省が6月28日に公表した鉱工業指数によると、13年5月の鉱工業生産指数は前月比2.0%と4ヵ月連続の上昇となり、事前の市場予想(QUICK集計:前月比0.2%、当社予想は同1.2%)を大きく上回った。出荷指数は前月比0.8%と3ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比▲0.3%と2ヵ月ぶりの低下となった。

5月の生産を業種別に見ると、生産の牽引役となりつつあった輸送機械は前月比▲3.4%と落ち込んだが、設備投資の低迷を反映し弱めの動きが続いていたはん用・生産用・業務用機械が前月比7.6%の高い伸びとなるなど、速報段階で公表される15業種中、12業種が前月比で上昇(3業種が低下)した。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷(除く輸送機械)は13年1-3月期の前期比4.7%の後、4月が前月比▲1.8%、5月が同1.7%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は13年1-3月期の前期比▲1.9%の後、4月が前月比▲1.1%、5月が同2.6%となった。GDP統計の設備投資は12年1-3月期から13年1-3月期まで前期比で減少を続けているが、



4-6月期は緩やかながら6四半期ぶりに増加すると予想している。

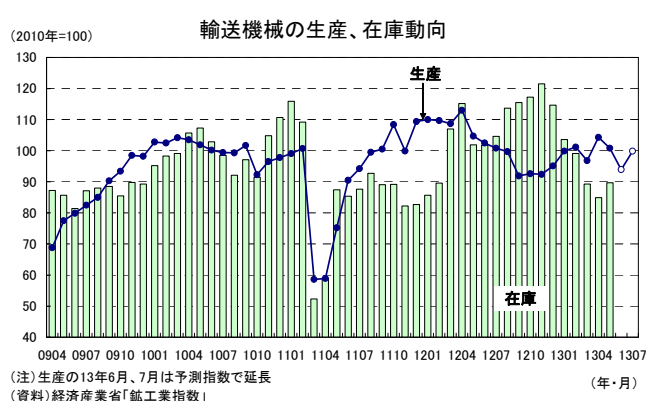
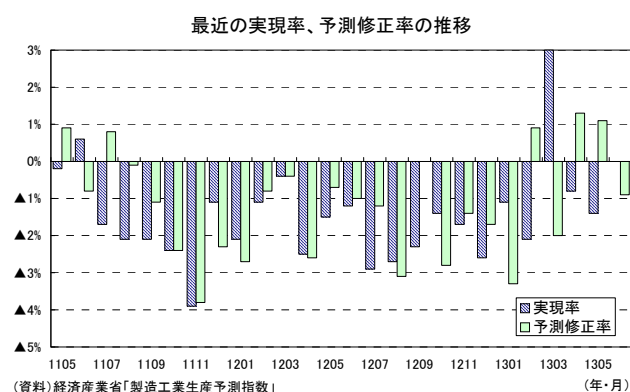
消費財出荷指数は13年1-3月期の前期比4.9%の後、4月が前月比0.9%、5月が同▲2.2%となった。5月は、非耐久消費財は前月比1.1%の増加となったが、自動車の落ち込みなどから耐久消費財が前月比▲6.1%と大幅な減少となったことが響いた。13年1-3月期に前期比0.9%の高い伸びとなったGDP統計の個人消費は、4-6月期も増加は維持するものの伸び率は大きく低下する可能性が高いだろう。

2. 生産計画はやや慎重

製造工業生産予測指数は、13年6月が前月比▲2.4%、7月が同3.3%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（5月）、予測修正率（6月）はそれぞれ▲1.4%、▲0.9%といずれもマイナスとなった。

予測指数を業種別に見ると、6月はほとんどの業種が前月比でマイナスとなっているが、特に輸送機械の減産幅（前月比▲6.8%）が大きい。一方、7月は輸送機械（前月比6.3%）、はん用・生産用・業務用機械（前月比9.3%）が高い伸びとなり、全体を大きく押し上げる形となっている。

生産の牽引役となりつつあった輸送機械が、5月の前月比▲3.4%に続き6月も大幅な減産計画となっていることは不安材料と言える。ただし、在庫の水準がそれほど高くないこと、7月は再び増産が見込まれていることからすれば、このまま輸送機械が生産調整局面入りするリスクは低いだろう。



13年5月の生産指数を6月の予測指数で先延ばしすると、13年4-6月期は前期比1.8%の上昇となり、1-3月期の同0.6%から伸びを高めることはほぼ確実となった。先行きについては、円安による輸出の押し上げ効果がさらに高まることが期待される一方、中国をはじめとした新興国経済の景気減速が輸出の下押し要因になる恐れがある。昨年末以降の生産の回復は個人消費を中心とした国内需要に支えられた部分が大きかったが、今後は輸出の動向が生産を大きく左右する展開となりそうだ。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。